

宇都宮市にある公益財団法人東日本盲導犬協会を見学させていただきました。今回は、協会の活動内容や盲導犬についてご紹介します。

東日本盲導犬協会とは？

「盲導犬ユーザー（使用者）に笑顔を！」をモットーに、良質な盲導犬を育成し、視覚障がい者がより豊かに自分らしく生活できるように支援することを目的として活動している団体です。

盲導犬ってどんな犬？

目が見えない・見えにくい人が安全に歩くことができるようにサポートする犬で、「視覚障がい者とともに歩くパートナー」です。「歩く」には道を歩くことと同時に、人生をともに歩む、という意味も込められています。



盲導犬訓練士の長谷川さんとPR犬

全国でどのくらい活躍しているの？

令和元年度末時点で、盲導犬は全国で928頭、栃木県では11頭が活躍しています。潜在的に盲導犬を必要としている人は3,000人いるといわれますが、日本は諸外国と比べて、盲導犬の普及率がとても低いです。

訓練を受けて盲導犬として活躍できるまでに育つ犬は約2割。1頭の盲導犬を育てるのに、ワクチンやフード代など約500万円のコストが必要で、90%以上が寄付や募金によってまかなわれているそうです。ユーザーさんには無料で貸し出しを行っていますが、導入までのハードルが高いのが現状です。

視覚障がいの種類と見え方のイメージ

全国には31万人の視覚障がい者がいます。そのうち全盲の方は3万人、弱視の方は28万人です。



通常視力

はっきり見える



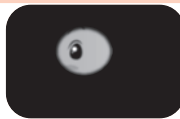
全盲

まったく見えない



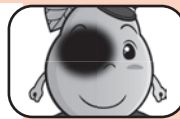
強度近視

すぐそばやける



視野狭窄

見える範囲が狭い



中心暗転

部分的に見えない



白濁

白くにごって見える



羞明

まぶしく感じる

弱視 見えにくい（ロービジョン）

街で視覚障がいのある方や盲導犬に出会ったら ~皆さまへのお願い~

さわらない、見つめない

ハーネスを着けているとき、盲導犬は作業者中です。

かわいらしい盲導犬ですが、仕事に集中できるように、触ったり見つめたりせず、そっと見守ってください。



危険を感じたら声かけを！

視覚障がいのある方が困っている様子が見られたときは、身体には触れず、まずは「何かお手伝いしましょうか？」と声をかけてください。目前に危険が迫っている緊急時には、腕を掴むなどをして安全を確保してください。また、視覚障がいのある方が右の図のように白杖を掲げている場合は、助けて欲しいという「SOS」のサインです。見かけた際は声をかけていただくようお願いします。



身体障害者補助犬法

公共施設や飲食店、病院、ホテル、タクシーなど、不特定多数の人が利用する場所では、盲導犬をはじめ、聴導犬、介助犬などの補助犬の同伴を受け入れることが義務付けられています。



許可なく写真を撮らないで

盲導犬は、ユーザーの目=身体の一部です。ユーザーの許可なく盲導犬の撮影はしないようにしてください。

点字ブロックには物を置かないで

視覚障がいのある方は、点字ブロックを頼りに歩いています。ブロックの上やその周囲に余計な物があると大変危険です。

点字ブロックの上には、何も置かないよう注意しましょう。

